

## 国際センター通信 (No. 51)

### 会長 新年挨拶

2017年の新春を迎えるにあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。  
昨年を振り返りますと、海外では、7月にバングラデシュの首都ダッカで、悲惨な事件が発生し、日本人7人を含む方々が亡くなりました。改めて、この事件の犠牲者に心から哀悼の意を表します。

また、国内でも、熊本地震、岩手・北海道豪雨など、大きな自然災害が続きました。土木学会では現地の被害調査などを行っており、得られた知見は海外にも発信していかなければなりません。

さて、土木学会では幅広い国際活動を行っていますが、私自身も、8月の第7回アジア土木技術国際会議 (Civil Engineering Conference in the Asian Region: CECAR)、9月の全国大会での国際ラウンドテーブルミーティング、10月の大韓土木学会 (KSCE) 年次大会、11月の「世界で活躍する日本の土木技術者シリーズ」講演会など、多くの行事に参加し、様々な国の方たちと交流の機会を持つことができました。

このうち、CECARは、1998年に、日本、アメリカ、フィリピンの3か国の協力により始められ、以降、参加国を増やししながら、3年に1回の頻度で開催されている国際会議です。この会議を主催しているアジア土木学協会連合協議会 (Asian Civil Engineering Coordinating Council: ACECC) は、第1回CECARの成功を受け、先述の3か国に台湾、韓国を加えた5か国で1999年に設立され、現在では13か国が参加しています。

今回は、米国土木学会 (ASCE) がホスト国となり、ハワイで開催されました。200編近い論文発表のうち4割は日本からのものであり、大変頼もしく感じるとともに、本会議における日本のプレゼンスの高さを実感しました。

そして、次回、第8回のCECARは、2019年4月に東京で開催されます。日本でのCECAR開催は、2001年以来、18年ぶり2回目です。それまでの期間、ACECC事務局も土木学会が担うこととなり、国際センターが中心となって、組織委員会などの体制作りが着々と進められています。

今年から、開催準備を本格的に開始しますが、こうした活動には、若手、女性、シニアを含めた幅広い層の方々にもご参加いただきたいと考えております。そして、その中から、土木学会のこれからの国際活動を担う人材が育ってくれば良いと思っています。

今年も、土木学会の国際活動へのご協力をよろしくお願いいたします。



土木学会 会長  
田代 民治

## 大韓土木学会（KSCE）年次大会参加報告

2016年10月19日から21日にかけて、大韓土木学会（Korean Society of Civil Engineers、以下KSCE）の年次大会KSCE 2016 Conventionが韓国済州島の国際コンベンション・センターで開催された。

土木学会（以下JSCE）とKSCEは、1989年に協力協定を締結し、それぞれの年次大会への代表団相互派遣などの交流活動を継続している。今年もKSCEから年次大会への招待があり、田代会長夫妻、塚田専務理事、静岡大学 藤本穰彦准教授、国際センター国際交流グループ江上和也氏（韓国担当リーダー、(株)エコー）、今村の6名が参加した。

初日の19日は、ソウル経由で現地に入り、夕刻の歓迎レセプションに出席した。レセプションでは、田代会長がJSCE代表としてスピーチを行うとともに、KSCE歴代会長など出席者との親交を深めた。

レセプション後には、JSCE韓国分会の金在権会長、李東郁前会長などを交えて、意見交換を行った。韓国分会は、2000年の設立以来、長期にわたって、日本と韓国の土木技術者の交流促進に貢献している。

翌20日には、最初に、年次大会と同時開催のKSCE 2016 Civil Expoのテープカットが行われた。李成雨KSCE会長をはじめとする学会幹部、国内来賓とともに、海外ゲストとして田代会長もテープカットに加わった。なお、同Expoには、官民から約60件の展示が行われ、盛況であった。

次のオープニングセレモニーでは、李会長のスピーチに続き、学会賞の表彰、海外ゲストの紹介などが行われた後、国際的なコンサルタント企業COWI社のLars Hauge副社長による基調講演があった。

同日午後には、国際行事として、International Roundtable Meetingが開催された。“New & Renewable Energy for Sustainable Society”のテーマに関連して、日本、台湾、パキスタン、英国、韓国の計5か国の代表者から講演があった。JSCEからは、藤本准教授が、“Small Hydropower Technologies and Networks in Asia”と題する講演を行った。

これに続き、JSCE-KSCE会長ミーティングとして、KSCEの李会長、朴英錫次期会長他との会談を行った。JSCEからは、2019年に東京で開催する第8回アジア土木技術国際会議（CECAR8）、アジア土木学協会連合協議会（ACECC）でJSCEの提案により立ち上げられた、防災に関する技術委員会、また、5月に公表した「インフラ健康診断 道路部門試行版」などを紹介し、意見交換を行った。CECAR8での協力を含め、今後も様々な活動で連携を図ることが確認された。

最後に交流会に出席し、シヴィル・ハーモニーによる合唱、韓国の伝統楽器による演奏などを楽しみ、翌21日朝、現地を後にし、日本に帰国した。

【記：今村 崇（土木学会 会員・企画課、鹿島建設(株)から出向）】



歓迎レセプションでの会長スピーチ



KSCE-JSCE 会長ミーティング

## ACECC 技術委員会 TC21 が CECAR7 にて二つのイベントを開催

国際センター通信 (No.46) にて報告したとおり、TC21 は ACECC (アジア土木学協会連合協議会) 内で企画された 21 番目の技術委員会 (Technical Committee) の略称であり、正式タイトルは「Transdisciplinary Approach for Building Societal Resilience to Disaster」である。本委員会は、ICHARM (水災害・リスクマネジメント国際センター) の竹内邦良顧問およびフィリピン DPWH (Department of Public Works and Highways) の Romeo S. Momo 次官を Co-chair として、昨年 10 月に立ち上げられた。「Transdisciplinary」という言葉自体は、共通の目的に向かって技術および分野の異なる関係者が協働するという概念で、和訳では「分野横断的」あるいは「協働」とされる例が見られる。

この度、8 月 30 日から 9 月 2 日までハワイ・ホノルルで開催された第 7 回アジア土木技術国際会議 (CECAR7) において、TC21 がキックオフミーティングとパネルディスカッションの二つのイベントを開催した。

8 月 31 日に開催された TC21 キックオフミーティングでは、アメリカ、中国、韓国、インドネシア、ベトナム等の各国土木学会のメンバーが初めて一堂に会した。竹内顧問およびフィリピンの Momo 次官、また Secretary である九州大学の塚原健一教授から TC21 の趣旨、目的が説明され、メンバーから概ね合意を得ることができた。また TC21 において各国で形成する National Platform の役割について議論を交わし、National Platform (国家の防災関係機関) に対する科学的意思決定に向けた支援、参考となる優良事例の共有などが案として出された。

また、翌 9 月 1 日には「TC21 Panel Discussion: Transdisciplinary Approach to Build Resilient Society」と題してパネルディスカッションを開催した。会場がほぼ満員になるくらいの多くの人が集まり、TC21 の活動に対する大きな期待・注目が感じられた。冒頭の竹内顧問による TC21 の活動紹介に続き、災害における科学的知見の活用とその課題について、アメリカ、韓国、台湾、フィリピン、そして日本の事例が紹介された。最後のディスカッションでは TC21 における情報共有の重要性を強調する意見や、Resilient をどう定義し、社会においてどのように評価すべきか等の議論が交わされ、熱気を帯びたイベントは盛況の中で終えた。

今後 TC21 は、11 月 18 日にフィリピン・ダバオで開催されるフィリピン土木学会の年次総会においてシンポジウムを開催する他、来年 4 月にネパールで開催される ACECC の理事会においてもワークショップを予定しており、引き続き活発な活動を続ける予定である。



パネルディスカッションの様子 (右下: 竹内顧問、右上: Momo 次官、左: 会場の様子)

【記: 井上雅志 (ACECC TC21 国内支援委員会 委員兼幹事 (エイト日本技術開発))】

## 応用力学委員会の活動紹介

応用力学委員会は、1994（平成6）年9月、土木工学の力学分野に共通の基盤を整え、関連諸分野との研究連携のもとに、理論的解析の力学、実験的力学並びに計算力学の発展に寄与することを目的として発足した。以来、土木工学分野において「応用力学」をキーワードに、分野横断的な研究者・技術者のコミュニティーを組織し、基礎研究を中心に先端的な研究活動を展開してきた。

特に、1998（平成10）年より開催してきた「応用力学シンポジウム」は、応用力学研究の最先端の成果発表の場として、毎年国内外の多数の研究者・技術者・学生により研究成果が発表され、その成果をまとめた論文は、フルペーパー査読ののち、「土木学会論文集A2（応用力学）特集号（応用力学論文集）」として年1回発刊している。現在は、5つの編集部門（物理数学力学問題、計算力学、材料・複雑現象の力学、流体力学、インフラ構造・解析）の下で、毎年200件前後の口頭発表と100件近い査読論文の投稿を受け付けている。2017（平成29）年度のシンポジウムは、5月20日（土）・21日（日）に京都大学吉田キャンパスにて開催予定である。

なお、応用力学委員会では、先端的な研究成果を全国各地の会員の皆様へ還元する目的で、土木学会8地方支部で毎年「応用力学フォーラム」を開催し、多くの会員の皆様にご参加いただいている。また、年1回の頻度で開催している応用力学講演会や土木学会全国大会での研究討論会においても、流体力学や逆問題、災害シミュレーション、V&V（Verification and Validation）など応用力学研究の最前線的话题を会員の皆様にご紹介し、その成果の実務応用や教育への還元を促す活動に取り組んでいる。

最後に、活動の詳細については、応用力学委員会ホームページにてご覧いただきたい。

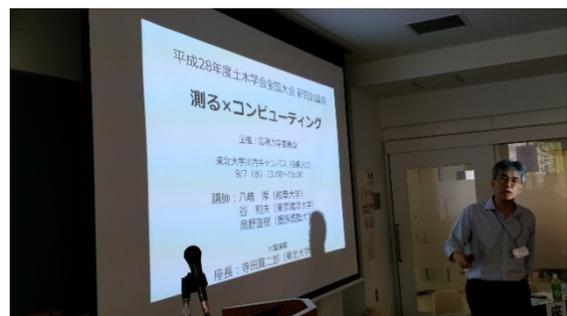
URL：<http://www.jsce.or.jp/committee/amc/index.html>



応用力学委員会  
委員長 泉 典洋  
（北海道大学）



応用力学シンポジウム・ポスター発表



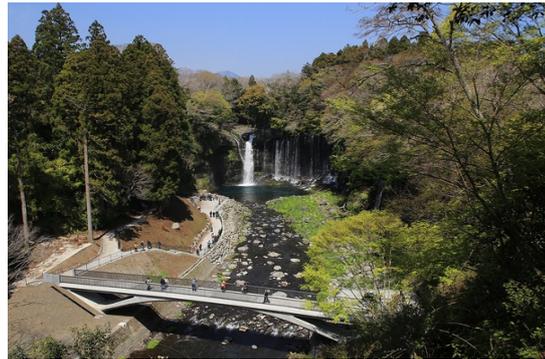
平成28年度研究討論会の様子

## お知らせ

- ◆土木学会誌 2017年1月号の特集記事の概要を JSCE の Website (英語版) にアップしました。  
<http://www.jsce-int.org/pub/magazine>
- ◆100周年記念事業「インフラ国際協力・国際貢献アーカイブス」の冊子に記載された五つのプロジェクトが JSCE の Website に掲載されています。  
<http://www.jsce.or.jp/e/archive>
- ◆土木学会景観・デザイン賞 2016 受賞作品が決定しました。  
[http://www.jsce-int.org/a\\_t/civil](http://www.jsce-int.org/a_t/civil)  
最優秀賞 4 件は以下のとおりです。



太田川大橋



白糸ノ滝滝つぼ周辺環境整備



天神川水門



上西郷川 里川の再生

## 配信申し込み

「国際センター通信」配信の申し込みは以下の URL よりお願いいたします。また、周囲の方に国際センター通信をご紹介いただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

「国際センター通信」配信希望者 登録フォーム

- ・日本語版 : (<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/31>)
- ・英語版 : (<http://www.jsce-int.org/node/150>)

## 英語版 Facebook

国際センターの英語版 Facebook です。直近の国際センターの活動について紹介していますので、ぜひご覧ください。(<https://www.facebook.com/JSCE.en>)

---

【ご意見・ご質問】: JSCE IAC: [iac-news@jsce.or.jp](mailto:iac-news@jsce.or.jp)

本通信をより話題性に富んだ内容にするため、皆様のご意見やコメントをお聞かせください。